

マグネシウム循環社会推進協議会が年次定例総会を開催 (大雪の影響で公開セミナー「Mg-Day in Tsuruga」は中止)

平成 30 年 2 月 9 日 10 時から（公財）若狭湾エネルギー研究センターにおいて、マグネシウム循環社会推進協議会（以下 協議会）の主催する公開セミナー「Mg-Day in Tsuruga」（後援：近畿経済産業局、福井県など）は、記録的な大雪に見舞われた。降雪のピークが超えたが、交通機関のダイヤが大きく乱れた為、中止となりました。一方、開発委員会は雪明りを意識しながら前日 8 日の夕刻から宿泊先のサンピア敦賀で開催、翌日、協議会としての定例会については、翌日、予定通り、開発委員会のメンバーが出席し開催されました。

今回の定例会では、これまでの東北大学名誉教授の小濱氏から、産業技術研究所九州センター長の坂本満氏が会長に就任、開発委員会に各部会を設置し部会長（製錬：東北大学 柴田教授、合金：戸畑製作所 松本氏、電池：藤倉ゴム工業 阪間氏、応用：古河電池 熊谷氏）が選出されました。

特に今回の報告に関しては、新しく会員として加わった徳島県三好市からの、（一社）三好山城マグネシウム地域活性化協議会からの参加が目を引いた。三好市においては、過疎化と豪雪による電力ストップが懸念されており、地域住民が電力の地産地消と地域活性化を目指して法人化を図り、マグネシウム素材を活用した産業集積である「サイエンスパーク構想」の実現を目指すとの発表があった。

現在マグネシウム製錬の殆どは中国で行われているが、石炭といった化石燃料を多量に使用し、CO₂ の排出量も多いことから、地球環境にとっては多くの負荷がかかっている。したがって、国内において環境負荷の低いグリーンな方法で製錬（精錬）やリサイクルを可能にすれば、マグネシウムはエネルギー等としてさらに認知され、活用の促進が図られるであろうとの結論に至った。特に、徳島県三好市のサイエンスパーク構想では、廃校を利用してマグネシウム関連産業に属する企業が、連携体制により製錬研究所を開設できるように計画している。これには、廃校近隣の水力発電所からグリーンなエネルギーを活用した製錬を行うことができ、構想の実現が待たれるところである。

会場となった協議会のメンバーでもある若狭湾エネルギー研究センター施設の見学会があり、グリーンなエネルギー製錬（精錬）の方法として、同所に設置試験中の雪を被った「フルネルレンズ」の視察を行った。合わせて最新のエネルギー開発、分析に関する機械等を目にすることができ、参加者は興味深く見ていた。

また、一般社団法人マグネシウム循環社会協議会（1 月）として、まずは発起人にてスタート、更に組織の強化の為に、開発委員会代表者が理事となること等が承認された。

なお、今回中止となった公開セミナーのメニューは、Mg 協議会の公開セミナーとし、本年、7 月 6 日に「サイエンスパーク構想の実現」を内容として、徳島県三好市で「Mg-Day in Miyoshi」として計画されている。



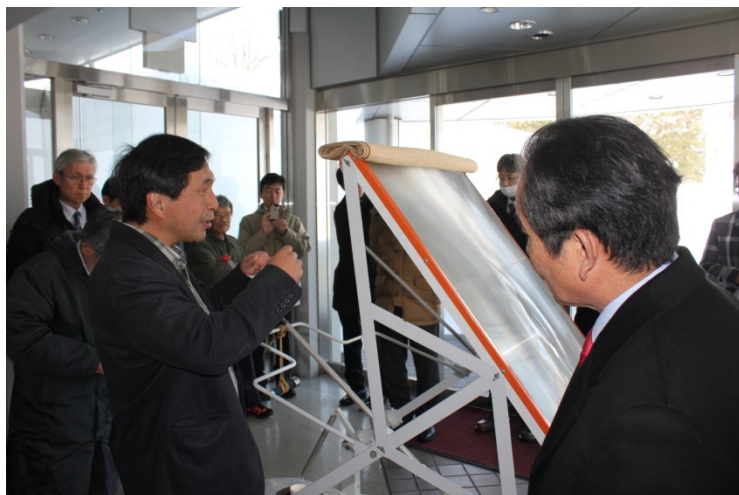
8日（木）の開発委員会は雪害の為、北陸線の遅れを想定して、21時から開催された。特に「グリーンなマグネシウムの国内で製錬、サイエンスパーク構想の実現、今後の組織に関わる意見が外の雪の情景とは反し熱く交わされた。



9日（金）の協議会（総会）は、公開セミナー会場の国際会議対応のホールから会議室に変更して、9：00から予定通り開催、前日の開発委員会での決定事項はすべて承認された。



9日（金）協議会（総会）の後に同所の見学会が開催。実証試験継続中の「フルネルレンズ」は雪を被っていたが、運転中のビデオや収集データなどの屋内に戻り、説明を受けた。



JAXAと共同開発した可搬型
とも言える「フルネルレンズ」、
「サイエンスパーク」への設置
を検討。

グリーンな製錬（精錬）の実現
の有力な機器になる。

*説明者は、開発委員会製錬部会
メンバーの同所の篠田主任、三
好市の並岡議員へ説明。



9日（木）公開セミナーの会場と
なった「若狭湾エネルギー研究開
発センター」の正門の状況。

（除雪がなされ当日は快晴）



次回、7月5日、6日「Mg-Day
in Miyoshi」の開催地として計
画の徳島県三好市における「サ
イエンスパーク」の中核施設で
ある廃校（山城地区政友小学校）
を水力発電所から撮影した。

マイクロ波ピジョン法を使え
ば、環境負荷ゼロになる。

*同市では年内に他2校も廃校
になる。